シンポジウム「大学入試におけるコロナ対策：令和３年度入試の舞台裏」のプレイバック

内田照久（大学入試センター），寺尾尚大（大学入試センター），石井秀宗（名古屋大学），
林 篤裕（名古屋工業大学），中村裕行（愛媛大学），立脇洋介（九州大学），西郡 大（佐賀大学），
宮本友弘（東北大学），久保沙織（東北大学），南 紅玉（東北大学），倉元直樹（東北大学）

COVID-19 の感染が深刻化した 2020 年に，個別大学の入試がどのようにコロナ禍に対応したのかを振り返るシンポジウムを行った。１年を四半期ごとに４期に区切り，その時々の課題をリアルタイムで検討してきた経過を報告した。また，将来の大学入試の危機対応に向けて，最も大切にすべきこと，軸足となる考え方を議論した。そのシンポジウムを入研協関係者に期間限定で配信する旨を報告する。

1 はじめに

1.1 コロナ禍の個別入試を振り返るシンポジウム

去る 2021 年 12 月 19 日，シンポジウム「大学入試におけるコロナ対策： 令和 3 年度入試の舞台裏」がオンラインで開催された。これは COVID-19 の感染が深刻化した 2020 年，個別大学の入試はどのように対応してきたのか，その１年間のリアルな検討過程を振り返るシンポジウムであった。

シンポジウムの開催にあたって，実施・運営を東北大学の科研プロジェクト(課題番号 21H04409) が担当して主催した。一方，プログラムの内容・構成については，大学入試センターの研究プロジェクト が共催で担当するという，ハイブリッドな体制で行った。

1.2 シンポジウムの紹介と見逃し配信の試み

本報告では，このシンポジウムの開催までの経緯とその概要を紹介する。さらに，そこでの貴重な議論を大学入試の危機対応に生かしていくことを目的として，まずは入研協関係者に限定して，シンポジウムを記録した動画の配信を行うこととした。今回は試験的に，2022 年 5 月 26 日～6 月 30 日までの 1 カ月間を目途に，期間限定で配信することとした。図１に視聴用の url のリンクと QR コードを示す。

https://vimeo.com/691718702/a9e4f1f1e5

図１．シンポジウムの配信用 url とその QR コード

2 シンポジウム開催の趣旨と背景

2.1 COVID-19 の感染拡大と個別大学入試

2020 年来の，世界的な COVID-19 の感染拡大は，私たちの仕事や，暮らしの形を大きく変えた。そして，わが国の「大学」にとっても，教育，研究，さらに「入試のあり方」そのものを，大きく揺さぶるものであった。

2020 年は，日増しに猛威を振るうコロナ禍の中で，個々の大学は，受験生を守りながら，入学者の選抜を進めなければならないという，厳しい難題と向き合って苦悩してきた。このシンポジウムは，その経緯を，2020 年のカレンダーをめくり直す形で，時間の経過に沿って振り返ることとした。

2021 年度入試の個別学力検査では，早期に 2 次試験の中止を決定した大学，感染状況の様子を見ながら実施の可否を見極めようとした大学，試験時間の短縮，内容の変更を行った大学など，様々な対応の処置が取られ，奇しくも個々の大学の裁量・決断に委ねられているものが，いかに大きいかを目の当たりにすることとなった。

その全てが初めての状況の中で，それぞれの大学がそれぞれに置かれた環境・条件で，何を最も大切だと考えて，どんな決断をしたのかに着目して振り返ることにした。その中から，大学入試の中で守るべきものは何なのか，を改めて見つめ直すこととした。そして，そこで考え抜いたことを，まだ見ぬ危機への対応のための，体制の構築に向けた手がかりにしていきたい，と考えたところである。

2.2 「緊急オンライン・フォーラム」の開催

近年，大学入試センター研究開発部には，センターの外の研究者と連携して個別大学の入試の支援を行う，

という，ナショナル・センターとしてのミッションが加わった。そのつい矢先に，コロナ禍が訪れた。

その危機に際し，2020 年の 6 月，入試センターの研究開発部は，『新型コロナウイルス禍における大学入試の在り方を考える』というテーマを据えて「緊急オンライン・フォーラム」を企画した。そして，そこには5つの大学から，大学入試センターにご縁があるアドミッションに携わる先生方にご参加いただいた。

2.3 外部非公開のオンライン・フォーラムの実施

当初は，オンライン・フォーラムでの情報交換から生まれた知恵を，積極的に発信していく予定であった。しかし，各大学の検討段階での試案などが，そのまま一人歩きするようなことがあると，社会的な混乱も予想されるということで，その場での議論のやりとりは，まずは非公開の形で進めていくこととなった。

そして，１年間，四半期ごとに計４回，その時々の課題を，率直に出し合って，緊張感を持った話し合いがなされた。それは入試センターのスタッフにとっても，個別大学の入試業務と並走しながら，実際の入試現場の戸惑いや悩みに直接触れるという，貴重な経験になったところである。

2.4 オンライン・フォーラムから公開シンポジウムへ

上記の緊急フォーラムに参加したメンバーが，本稿でのシンポジウムに登壇する講演メンバーとなった。緊急オンライン・フォーラムでは難しかった情報発信という当初の目的を，この公開シンポジウムの開催によって，ようやく実現できることとなった。

講演者は次の通りである(敬称略)。(1) 東北大学・高度教養 教育・学生支援機構：倉元直樹，(2) 名古屋大学・教育基盤連携本部・アドミッション部門：石井秀宗，(3) 名古屋工業大学大学院・工学研究科：林篤裕，(4) 愛媛大学・四国地区国立大学連合アドミッションセンター：中村裕行，(5) 九州大学・アドミッションセンター：立脇 洋介。

現在，このメンバーに，東京大学・高大接続 研究開発センター：植阪友理を加えた布陣で，大学入試センターの理事長裁量経費による研究プロジェクト も進めている。

2.5 新たなタイアップ体制の下でのシンポジウム運営

このシンポジウムでは，大学入試センターと個別大学との新たなタイアップによるシンポジウムの開催にも挑戦した。シンポジウムのプログラムの内容・構成は，入試センターの研究プロジェクトが，会の実施・運営は，東北大学の科研プロジェクトが担当した。

実施運営には，東北大学・高度教養 教育・学生支援機構：宮本友弘，久保沙織，南 紅玉が従事した。

2020 年以来，2 年にわたるコロナ禍を経て，今後，学会やシンポジウムでは，単なる web 開催だけなく，対面実施とオンライン配信を同時に行うハイブリッドな開催形式がもとめられる。今回，そのような形式を意識した運営の工夫もなされた。

その土台の上で，前半の司会を，大学入試センター研究開発部：寺尾尚大が，後半討論の進行を，佐賀大学・アドミッションセンター：西郡 大が担当した。

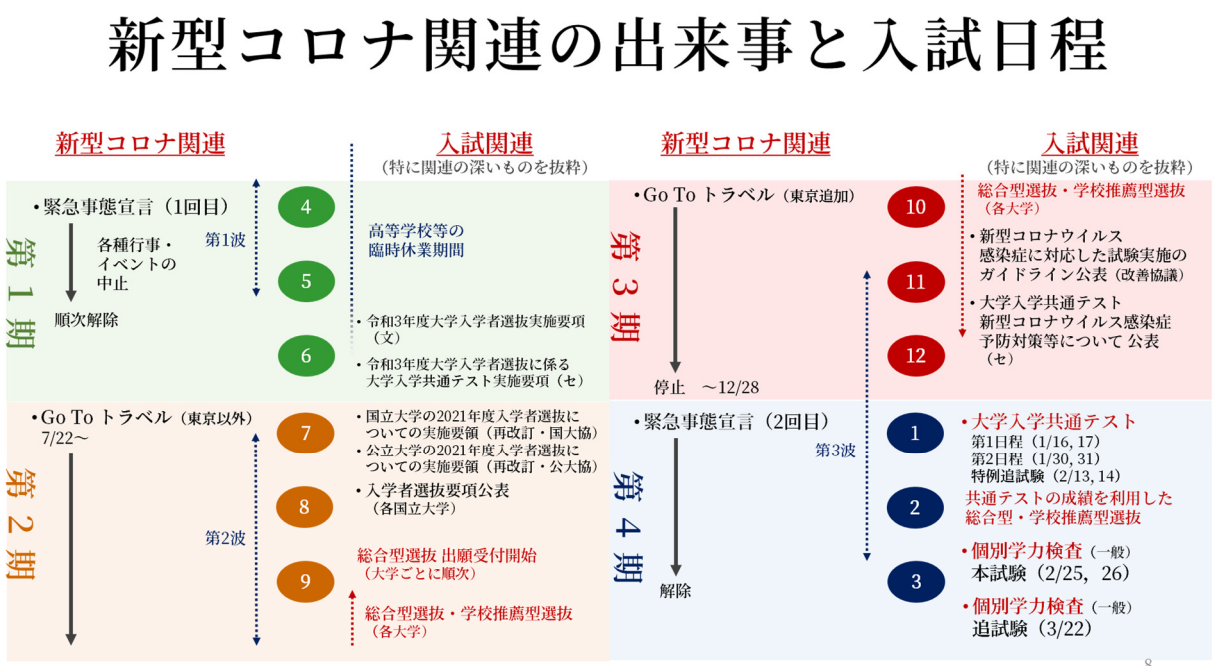

図 2. 時系列に沿って 4 期に分割して進めたシンポジウムの進行と入試日程

3 シンポジウムの進行の概略

シンポジウムでは，まず縦糸として，4 回行われた緊急オンライン・フォーラムに対応する四半期ごとの時間軸を据えた。その都度，都度に，検討しなければならなかった事柄を精査していった（図 2)。

そして，横糸として，コロナの発生数が実は大きく異なる「地域差」に着目して，地域ごとの温度差にも留意しながら整理した。

本稿では，シンポジウムで議論されたトークテーマの概要を示す。各話題についての説明や実際の討論の内容については，「はじめに」で紹介した見逃し配信動画，及び，シンポジウムの報告書を参照されたい(大学入試センター研究開発部, 2022)。

3.1 第 1 期 : 2020.4 ～ 2020.6

3.1.1 第 1 期の主な入試業務と当時のトピック

入学者選抜実施要項（文部科学省）および，大学入学共通テスト実施要項（大学入試センター）等を踏まえた各大学の入学者選抜要項の検討など

1 回目の緊急事態宣言の発出後，大学入試の根幹に関わるホット・トピックがいくつかあった。例えば，秋入学の議論は，選抜日程の組み方に直接影響を与えるものであり，かなり大きな懸案事項であった。

また，県境をまたぐ移動の制限は，県外からの受験生にどのように試験を受けてもらったらよいか，入試広報をどう工夫するかといった点で，影響を及ぼした。

さらに，受験機会の保障という観点から，追試験の設定についても論点になった。全選抜区分で実施できるのか，個別学力検査のみか，といった検討が必要となった。

3.1.2 第 1 期のフォーラムで議論されたこと

第 1 回の緊急オンライン・フォーラムでは，不確実な中で苦悩されている先生方から，各大学の検討状況や懸念事項についての話を伺った。例えば，共通テストの成績提供日程や，選抜区分ごとの追試験の可否，選抜方法に変更が生じた場合の周知方法などが議論された。

3.1.3 第 1 期のトークテーマ

令和 3 年度入試日程を検討する際の苦労

・都道府県境をまたぐ移動制限
・大学の行動指針との関係

個別学力検査の実施に関する温度感の違い

・「個別学力検査を必ず実施すべき」
・「共通テストの成績だけで選抜できるように」

不確実性の高い状況において各大学が重視したもの

・検討事項の詳細な洗い出し
・入試広報

3.2 第 2 期 : 2020.7 ～ 2020.9

3.2.1 第 2 期の主な入試業務

オープンキャンパス・進学説明会・高校訪問などの広報活動。総合型選抜・学校推薦型選抜の学生募集要項の公表（順次）。総合型選抜・学校推薦型選抜の出願受付など。

3.2.2 第 2 期のフォーラムで議論されたこと

第 2 回のフォーラムでは，総合型・学校推薦型選抜の具体的方法について情報共有を行った。面接やグループ・ディスカッションの実施の可否や方法，追試験の実施については，各大学でかなり悩んだことが報告された。また，オンラインを活用した選抜方法については，工夫を凝らしつつ，離島・僻地などに住む受験生など，多様な環境にある受験生に対して丁寧な配慮に心を尽くされた旨の話を伺った。

3.2.3 第 2 期のトークテーマ

総合型・学校推薦型選抜の事例共有（第 3 期）に向けた基礎情報の理解

・愛媛大学（早い判断が求められた／例年の選抜方法を一部変更した）
・九州大学（オンラインの活用／募集要項の記載内容変更の周知）
・名古屋工業大学（出願要件に「評定平均 3.5 以上」を追加）
・東北大学「緊急高校調査」の結果の紹介

3.3 第 3 期 : 2020.10 ～ 2020.12

3.3.1 第 3 期の主な入試業務

総合型選抜・学校推薦型選抜の実施（順次）。一般選抜の学生募集要項の公表。大学入学共通テストの出願受付。大学入学共通テストの監督者説明会など。

3.3.2 第 3 期のフォーラムで議論されたこと

第 3 回のフォーラムでは，かなり厳しい感染状況下で共通テスト・個別学力検査を実施することが，ほぼ確定的となった中で，本番を目前にした心配や不安の声を伺った。例えば，体調不良の受験生がいた場合に，本試験での受験を取りやめて追試験に回ってもらう際の条件，試験監督の先生の配置などが挙げられた。

さらに，入試に携わる教職員の過密スケジュール・過重労働，対面でなければできない業務などを考えると，コロナがなかったとしても繁忙期であるのに例年以上に緊張感と追加の対応が求められ，相当の負担がかかるのではないかといった話も伺った。

3.3.3 第 3 期のトークテーマ

総合型選抜・学校推薦型選抜の実際

・例年と異なる選抜方法をとった大学の事例
・オンラインの活用

感染拡大下の共通テスト・個別学力選抜を目前にした戸惑い・不安と覚悟
・追試験受験資格
・試験監督者をはじめとする関係者の不安の声

3.4 第 4 期：2021.1 ～ 2021.3

3.4.1 第 4 期の主な入試業務

大学入学共通テスト(本試験・追試験)。共通テストを課す総合型選抜・学校推薦型選抜の合格発表。個別学力選抜（前期・後期)と合格発表。追加合格の発表。

3.4.2 第 4 期のフォーラムで議論されたこと

第 4 回のフォーラムは年度明けの 4 月に実施した。怒涛の入試シーズンを終えた先生方に，共通テストや個別学力検査の実施の真に迫ったお話を伺った。共通テストの実施では，センターのガイドラインに沿って無事に試験を終了した大学があった一方で，臨機応変の対応が求められた大学もあった。

共通テストの第 2 日程をご担当いただいた大学では，たとえ受験者は少数であっても，実施的に 2 倍の入試業務の負担が求められた点について指摘があった。

また，個別学力検査については，追試験作成・実施へのエフォートと，人数規模との関係の指摘があった。すなわち，入念に準備しても，受験者数がゼロとなる場合があるため，問題作成の負担と照らした際の追試の位置づけについて議論が交わされた。

3.4.3 第 4 期のトークテーマ

考えておいてよかったこと・予期しなかったこと
・共通テスト・個別学力検査実施のリアル
・追試験受験者はあとがない
・保健室，濃厚接触者，試験監督者，受験生の様子
・本試験としての第 2 日程（出願時にあらかじめ希望）と追試験としての第 2 日程を，同時かつ独立に走らせることになった苦労

共通テスト特例追試験，個別学力検査の追試験

3.5 総合討論：将来の緊急事態に備えて

3.5.1 総合討論のトークテーマ

緊急事態における入試の「共同歩調」と「個別判断」
・国で（大学で足並みをそろえて）判断すべきこと
・個別大学で判断すべきこと

緊急事態における公平性・公正性の確保
共通テストの成績提供を予定通り行うことの重要性
選抜方法・日程の変更が想定される中での受験生に安心してもらうための「基本的考え方」
新型インフルエンザのときとの共通点・相違点は？

4. 今後の課題：大学入試の危機対応

本シンポジウムの公開が，まだ見ぬ大学入試の危機対応に少しでも役立つことを念じている。今後の課題は，まさに想定外の事案が頻発した，直近の 2022 年度入試の振り返りと対応策の整理である。

謝辞

本シンポジウムの遂行にあたって，JSPS 科学研究費補助金(JP21H04409)，及び。令和 3～4 年度 大学入試センター理事長裁量経費，「大学入試をめぐる危機対応の体制構築に向けて―COVID19 の災厄を越えて―」の援助を受けました。

参考文献

大学入試センター研究開発部 (2022). シンポジウム「大学入試におけるコロナ対策　令和3年度入試の舞台裏」 大学入試センター. https://www.dropbox.com/s/b74mkee51085m7x/Symposium.pdf?dl=0

渡辺敦司 (2022). コロナ下の大学入試を振り返る ―センターゆかりの研究者が「舞台裏」座談会― 内外教育 (2022年1月11日付), 6－7.

図 3. シンポジウムでの討論の様子（アルカディア市ヶ谷 私学会館 2021/12/19 [7F 白根])